

平成 22 年度 第 5 回 篠山市歴史文化基本構想等策定委員会（通算第 10 回）
議 事 概 要

1. 日 時：平成 23 年 3 月 18 日（金）14:00～15:30

2. 場 所：篠山市役所 3 階 301 会議室

3. 出席者：

		勤務先 / 役職名	氏 名	備 考
委員	市民 代表	篠山市文化財保護審議会会長	大路 靖	副委員長
		篠山市伝統的建造物群保存地区保存審議会会長	小林 一三	
		福住地区まちなみ選定準備委員会委員長	栗野 章治	
		H20 たんば世話人、兵庫県ヘリテージマネージャー	才本 謙二	
		文保寺観明院住職	鷲尾 隆円	
	学識 経験者	立命館大学グローバル・イノベーション研究機構教授	益田 兼房	委員長
		立命館大学理工学部教授	大窪 健之	
		園田学園女子大学未来デザイン学部文化創造学科教授	大江 篤	
		神戸大学大学院工学研究科准教授	黒田 龍二	
		神戸大学大学院工学研究科准教授	三輪 康一	（欠席）
		神戸大学大学院工学研究科教授	山崎 寿一	
	行政 関係	兵庫県教育委員会文化財室長	村上 裕道	
		兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課長	大町 勝	（欠席）
		兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり参事兼総務室まちづくり参事	北中 五雄	
		篠山市まちづくり部長兼地域計画課長	若泰 幸雄	
		篠山市農都創造部長	長澤 義幸	（欠席）
		篠山市教育委員会次長	長谷川 正	

事務局：篠山市教育委員会教育長 河南秀和

〃 社会教育・文化財課 西田辰博、村上由樹、成田雅俊、植木友

4. 資料：

- ・ 篠山市歴史文化基本構想等策定委員会設置要綱
- ・ 篠山市歴史文化基本構想（案）からの修正事項一覧
- ・ 篠山市歴史文化基本構想（案）に対するパブリックコメントと回答
- ・ 篠山市歴史文化基本構想
- ・ 広報丹波篠山 2011 年 3 月号
- ・ 篠山ふるさとガイドブック

5. 議事要旨

- (1) 開会
- (2) 委員長挨拶
- (3) 教育長挨拶
- (4) 議事概要

委員長： それでは、平成 22 年度第 5 回篠山市歴史文化基本構想等策定委員会次第に基づき会議を進める。

まず、報告事項(1)「篠山市歴史文化基本構想の策定について」事務局より報告をお願いします。

事務局： 資料として、印刷製本した「篠山市歴史文化基本構想」と「篠山市歴史文化基本構想（案）からの修正事項一覧」「構想（案）に対するパブリックコメントと回答」となる。

それでは、印刷製本した構想の 3 頁の右側 平成 22 年度をご覧いただきたい。

まず、前回 1 月 13 日の第 9 回委員会以後の経過について報告する。

平成 20 年 12 月の第 1 回委員会より今年の 1 月まで計 9 回の委員会を開催し、構想の策定に関する審議、また現地調査等について大変お世話になり、今年の 1 月 13 日の前回第 9 回委員会で構想案についてご承認いただいた。それをもって、委員会終了後、委員長及び副委員長から教育委員会へ、構想案を報告いただいた。

それを受け、同日の定例教育委員会で協議し、1 月 21 日に臨時教育委員会を開催し、構想案を議決した。その後、1 月 31 日から 3 月 1 日までの 30 日間、パブリックコメントの募集を行い、また本日の資料で配布している篠山市広報紙に構想案に関する特集記事を掲載し、市民の皆様幅広く周知を行った。

パブリックコメントについては、4 名の方から 32 項目の意見を頂戴した。意見の概要としては、主に構想の第 1 章から 2 章に関する記述内容に関する意見、把握漏れの文化財があるのではないかという意見、また構想に基づく取り組みの中でふるさと教育などの推進に参画して進めていきたいという意見などを頂戴した。

こういった意見などをもとに構想案の修正等を行い、3 月 9 日の定例教育委員会に構想の策定について議案として上程し、議決を頂き、同日に策定となった。

次に 1 月 13 日に委員会から報告いただいた構想案から変更、修正した箇所について、報告させていただく。資料「篠山市歴史文化基本構想（案）からの修正事項一覧」と構想をご覧いただきたい。

- 修正箇所の説明 略 -

以上が、構想案からの変更・修正箇所である。

平成 20 年度から 2 年と 4 ヶ月にわたり、審議、調査をお世話になり、無事、篠山市歴

史文化基本構想の策定となった。感謝申し上げる。

以上で報告事項 1、篠山市歴史文化基本構想の策定に関する報告を終える。

委員 長： ただいま、事務局より前回の策定委員会で構想案を教育委員会に報告して以降の経過などを中心に報告をいただいた。

平成 20 年 12 月から取り組んだ策定委員会も今回が最終の会議ということで、各委員からこれまでの策定委員会での取り組みや策定された構想に関する感想、意見などをいただければと思う。

委員： 当初、城下町と福住をいかに繋いで活かしていくかという課題があったが、策定委員会での審議によって、より広い視野で構想はまとまった。今後は、構想に基づき福住の町並み保存について、重伝建地区への選定を早期に実現できるよう取り組んでもらいたい。

各分野の先生方により専門的な視点でご指導を賜った。また、事務局もよくまとめていただいた。感謝申し上げます。

委員： 福住の重伝建選定にあたっては、本構想の考え方を盛り込むような形で進めてもらいたい。

委員 長： 農水省系のモデル事業などを活用するなど、伝建地区になると良いと思ってもらえるような仕掛けを検討してもらいたい。

委員： 防災の調査結果を構想に反映していただいている。

基本構想は、基本的なところであるので、何かあればこの構想に立ち返ってみる必要がある。次年度以降のビジョンがあるかどうか重要。モデル地区などを設定し、地域主体で取り組むことに支援することは大変良いことだと考える。

委員： 市民によく知ってもらうことが大事である。

委員： 民俗の場合、藤坂、河原町、福住で調査させていただき、地域の方々に感謝申し上げます。指定文化財だけが文化財ではなく、身近なものが大事であるとして、民間話話なども取り入れてもらった。地域の方々の記憶を残していくことが大事だと考える。個別には、黒岡の春日神社の祭礼、福住の文書の文化財調査に取り組んでもらえればと思う。

委員： 保存と記録が大事である。基本構想は総合性である。民俗と建築などを一体化した総合的な施策が今後必要だと思う。そのためには条例化などの取り組みが必要ではないかと思う。

委員： 篠山の取り組みの特徴として、1つに総合性が上げられる。集落という身近なコミュニティの文化財を発掘したこと。他の地区では千何件ということだが、篠山の場合、自治会アンケート回答が半数だったことを考えると、実際は万を超すかもしれない。そういった一万を超す文化財をどう活かしていくかということだ大事である。「つながり」がキーワードになると思う。文化財のつながり、各分野のつながり、市役所内のつながり。こういったものが大事になると考える。

委員： 地元の集落で、地域の歴史や民俗を勉強したいという声があがっている。地域を見直すよい機会となった。今回の取り組みを地域にフィードバックしていきたい。

委員： 市民とともに古民家再生に取り組んでいるが、持続可能な取り組みを進めるためには、資金も重要である。八上などに良い建造物があるが、地域にどうアプローチしていけ

ばよいかなど課題も多く、今後もアドバイスをいただきたい。

委員：単に守るということだけでは、つぶれるということにつながる気がする。いかに活かして使うかを考えることが大事である。守るということと手入れをするということをしなればいけない。他の地域の取り組みをよく学べた。

委員長：他に意見、感想がなければこれで終了としたい。ここで進行を事務局にお返りする。

(5) 閉会 副委員長挨拶